

各位

「緊急開催!!デング熱の脅威」

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年8月27日、日本国内で海外渡航歴のない10代女性がデング熱を発症しました。

国内での感染例は1945年以来で約70年ぶりのこととなり、10月15日現在において患者数は159名にまでなっています。

デング熱は感染しても重症化することは稀であると言われていますが、WHO（2014年3月）によると、世界的には、年間約50万人が重症型デングに至りそのうち約1.25万人（重症型デングの約2.5%）が死に至っています。

世界的に見ると、デング熱は非常に脅威であるといえます。

一部の報道によると、デングウイルスを媒介する蚊の移動性は低く、またウイルスは経卵伝染しないため冬を越す可能性は低く今回の感染は限定された場所での一過性のものであるかのような報道がされています。

しかしながら、ヒトスジシマカは数kmの移動が可能であり、また、デングウイルスが経卵伝染するという研究報告も多数あります。このことからデング熱は、来年以降も発生する危険性があり、決して楽観視できる状況ではないと考えられます。

当財団ではこのようなデング熱の脅威に立ち向かうべく、デング熱をはじめとする熱帯感染症及びそれを媒介する蚊の研究の第一人者を招き、まずはデング熱について正しい知識を周知してもらうための講演会を開催させて頂きたいと考えました。

急なご案内の上、ご多忙中とは存じますが万障お繰り合わせの上ご来場下さります様お願い申し上げます。

敬具

記

時間	テーマ講演	講師	略歴
14:30	「デング熱/デング出血熱とは」	長谷部 太	長崎大学熱帯医学研究所 ベトナム拠点 教授 デングウイルスや日本脳炎ウイルスといった蚊媒介性ウイルス感染症やコウモリ由来のウイルス感染症の研究など
15:30	デング熱媒介蚊の生態と防除	川田 均	長崎大学熱帯医学研究所病害動物学分野 准教授 感染症媒介蚊の生態、行動、防除方法、殺虫剤抵抗性の研究など
16:30	高効力製剤開発の必要性	杉浦 正昭	フマキラー株式会社開発本部海外開発研究部 リーダー
17:00	閉会		

日時：平成26年11月13日（木） 開場時間：14:00 開演時間：14:30

場所：ANAクラウンプラザホテル広島 22F キャッスルビュー

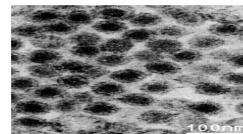
広島県広島市中区中町7-20 電話082-241-1111

会費：無料

連絡先：公益財団法人 大下財団 事務局長 吉島 亨 電話082-871-1111



代々木公園防除風景



デングウイルス/国立感染症研究所

SankeiBiz